≪ＡＣＰを繰り返しお聴きし、長女様のところに退所された方をご紹介します。≫

ＡＣＰ１回目

Ｒ３．９ お元気だったＫさんに次の事柄について聞いてみました。

職　員：希望する終末期の医療はありますか。
ご本人：『そのままがいいです。』
職　員：希望する最期の場所はありますか。
ご本人：『やっぱり最期は家がいいです。』
職　員：何かしておきたいことはありませんか。
ご本人：『家に帰りたい。家では一人だから、ずっと居るのは寂しいですが・・。
孫達に美味しい料理やお菓子を食べさせたいです。　』

病状説明

この数日後、体調を崩され食事が摂れなくなり、施設長より人生の最終段階に入りつつあると説明すると、ご家族は**「一度家に連れて帰りたい、最期は母のそばに居てやりたい」**と希望を教えていただきました。

≪その後、家族で話し合われ、４泊５日の『自宅外泊』が決定≫

外泊準備

ご本人様の想いを実現させようと、ご家族と施設が何度も話し合い、連携しながら４泊５日のスケジュールを作り上げていきました。

外泊準備
施　設：介護についてのアドバイス
ベッドやリクライニング車椅子準備
ご家族：家族間での介護分担や自宅での過ごし方を考える

ご家族には医師、看護師等いらっしゃいましたのでほとんどお任せしました。

外　泊

最期になるかもしれない時間を子・孫・ひ孫と共に過ごされました。

コロナ禍ではありましたがこれほど大勢の親族が集まり、ふれ合えるのは自宅だからこそできたことです。
（なんぐん館からは、ご家族皆様が安心してお会いできるよう、PCR検査を行う等の対応をさせていただきました。）

ＡＣＰ２回目

Ｒ３．１０　外泊を終え、ご本人、ご家族に次の事柄について聞いてみました。

職　員：　希望されていた『家に帰りたい』を実現され、どうでしたか？
ご本人：「とてもに賑やかで笑って過ごせました、家のルーツや、私の幼少期の話しを初めて子供にしました。息子には「この家を頼みます」と伝えましたが責任を負わせることの申し訳なさもあり、なんとも言えませんでした。
職　員：またお家に帰りたいですか？
ご本人：もうそのようなチャンスはないと思います。死が近いと感じます。いつも通りの生活を送り、皆が「さっきまでここに座っていたのにね」と言われるように逝きたいです。
ご家族：「母の幼少期の話が聴けました。また、母のオムツを初めて替えました。」等々、ご家族からは自宅でふれ合えたからこその感想が聞けました。

その後も緩やかに「終末期に向かっている」という事実を、面会やビデオ通話等で、ご家族と職員とで共有しながら穏やかな日々を過ごされました。

≪入所中のご家族とのビデオ通話の一コマを紹介します。≫

＜初孫が出産したとの報告＞

お母さん、ひ孫が生まれたよー

うわーおめでとう　よかったね

この日体調が悪かったのですが、
職員も驚くほど大きな声で祝福の言葉を贈られました。

＜別の日、子供さん、孫さんが大勢で・・・。＞

お母さん調子はどうですか

まあまあですね

おばあちゃーん

おばあちゃーん

まあ、〇〇ちゃん、〇〇くん・・。

途中まで賑やかに笑談されていたのですが、通話の参加人数が増えるにつれ口数が減り、疲れたのかなと心配したのですが、電話終了後、職員に嬉しそうなお顔で**「はぁ～!賑やかやったですねー」**と（笑）。

思い入れが強かった初孫の出産報告にとても喜ばれ、その姿を見たご家族は
『初孫とひ孫に会わせたい』と次の目標を立てられました。